

J.LEAGUE NEWS



編集・発行
社団法人 日本プロサッカーリーグ
ホームページ <http://www.j-league.or.jp>

スポーツで、もっと、幸せな国へ。 Jリーグ百年構想

Vol. **155**
26.Dec.2008



リーグ戦に有終の美を飾った鹿島の選手・スタッフは、喜びも最高潮。成績が伸び悩む時期や、主力選手の負傷などの困難を乗り越え、底力を発揮した

J1は鹿島が2連覇、6回目の優勝

J2から広島、山形がJ1へ自動昇格。J1・J2入れ替え戦は磐田が勝利

J1リーグ戦は12月6日、最終節の第34節を終了し、鹿島アントラーズが2連覇、Jリーグ最多となる通算6回目の優勝を飾った。最終節の前に、名古屋グランパス、川崎フロンターレにも優勝のチャンスがあったが、コンサドーレ札幌を1-0と破った鹿島が自力でタイトルを獲得。鹿島にとっては2000、01シーズンに続く2回目の2連覇となる。J2リーグ戦はサンフレッチェ広島が第38節（9月28日）に優勝を決めた後、モンテディオ山形が11月30日の第44節で2位を確定し、両チームはJ1への昇格を達成。ジュビロ磐田（J1の16位）とベガルタ仙台（J2の3位）によるJ1・J2入れ替え戦は、磐田がホーム&アウェイの対戦成績を1勝1分として、残留を決めた。

J.LEAGUE OFFICIAL SPONSORS

Calbee Canon KONAMI AiDEM マイラン製薬 Leoplace21 plenus

NETWORK PARTNER



J.LEAGUE 100 YEAR VISION PARTNER

朝日新聞

J.LEAGUE OFFICIAL BROADCASTING PARTNER

スカパー!

LEAGUE CUP SPONSOR

ヤマザキナビスコ

J.LEAGUE ALLSTAR SOCCER SPONSOR

JOMO

SUPER CUP SPONSOR

FUJI XEROX

EQUIPMENT SUPPLIER

molten For the real game

J.LEAGUE OFFICIAL SUPPLIER

Johnson & Johnson

2008シーズン クライマックス



FC東京と対戦した千葉は、0-2の劣勢からの逆転勝ちで残留が決定



最終節の札幌戦で決勝点を挙げた鹿島のMF野沢。鹿島は第32節からの3試合をいずれも1-0の勝利。FW陣が厳しいマークにあう中、DF、MFの選手が貴重な得点

名古屋(赤)は最終節、大分と引き分けて3位と なったが、初のACL出場権獲得

J1最多の65得点を挙げた川崎F(白)は2位。 東京V(緑)は奮闘も実らず、17位に終わった

J1 優勝は4年連続、最終節の決着。 残留争いも劇的な結末

J1 リーグ戦の優勝争いは、2005 シーズンから4年連続、最終(第34)節の決着となった。これにAFCチャンピオンズリーグ

(ACL)2009の出場権争い、さらにJ1 残留をめぐる戦いも絡み、リーグ戦の終盤は非常に白熱した展開となった。

最終節を前に、優勝のチャンスがあったのは首位の鹿島アントラーズ(勝点60)、2位の名古屋グランパス(同58)、3位の川崎フロンターレ(同57)の3チーム。アウェイのコンサドーレ札幌戦に勝利すれば、自力優勝となる鹿島は、35分にMF野沢拓也が右足のミドルシュートをゴールネットに突き刺し、待望の先制点。その後も攻めの姿勢を貫き、1-0の勝利によって2連覇、通算6回目の優勝を決めた。クラブに国内の公式大会で12冠目となるタイトルをもたらしたオズワルドオリヴェイラ監督は「苦しいシーズンだったが、それを勝ち取ったことはチームの成長の証」と、約9カ月に及ぶ戦いを振り返った。

名古屋と川崎Fは、初優勝の望みが消えたが、それぞれ3位、2位と健闘し、リーグ戦の3位以内に与えられるACL2009への出場権を獲得した。

J1の残留をめぐる戦いは、最終節を前にして3チームに17位となる可能性があり、5チームにJ1・J2入れ替え戦への出場となる16位の可能性があった。このような状

況下、劇的に残留を決めたのが、17位で最終節を迎えたジェフユナイテッド千葉。ホームのFC東京戦は0-2と追い込まれたが、終盤の11分間に4点を挙げる猛攻を見せて4-2の逆転勝利。勝点2差のあった15位のジュビロ磐田、16位の東京ヴェルディが共に敗れたため、15位に浮上。磐田が16位となってJ1・J2入れ替え戦へ出場、東京Vが18位の札幌と共に来季はJ2リーグ戦へ舞台を移すことになった。

J1の得点王となったのは、21点をマークした鹿島のFWマルキーニョス。鹿島からは初の得点王となった彼は「開幕前から目標としてきた優勝と得点王を取れてうれしい」と喜びを語った。

鹿島のディビジョン1優勝におけるチェアマンのコメント

鹿島アントラーズ、連覇おめでとう。王者鹿島アントラーズに対し、コンサドーレ札幌も若手を中心に健闘した、好ゲームだった。今年の鹿島はけがをした主力が多かったにもかかわらず、シーズンを通し、オズワルドオリヴェイラ監督の随所に光るさい配の下、若手とベテランがうまくかみ合ったチームとなっていた。また、選手同士の絆の深さもうかがえた。評価したい。来年、リーグ戦はもちろん、ACLにおいてもリーグチャンピオンとして素晴らしい闘いを期待したい。

社団法人 日本プロサッカーリーグ
チェアマン 鬼武 健二

順位表

順位	チーム	勝点	試合	勝	引分	敗	得点	失点	得失差
1	鹿島アントラーズ	63	34	18	9	7	56	30	+26
2	川崎フロンターレ	60	34	18	6	10	65	42	+23
3	名古屋グランパス	59	34	17	8	9	48	35	+13
4	大分トリニータ	56	34	16	8	10	33	24	+9
5	清水エスパルス	55	34	16	7	11	50	42	+8
6	FC東京	55	34	16	7	11	50	46	+4
7	浦和レッズ	53	34	15	8	11	50	42	+8
8	ガンバ大阪	50	34	14	8	12	46	49	-3
9	横浜F・マリノス	48	34	13	9	12	43	32	+11
10	ヴィッセル神戸	47	34	12	11	11	39	38	+1
11	柏レイソル	46	34	13	7	14	48	45	+3
12	大宮アルディージャ	43	34	12	7	15	36	45	-9
13	アルビレックス新潟	42	34	11	9	14	32	46	-14
14	京都サンガF.C.	41	34	11	8	15	37	46	-9
15	ジェフユナイテッド千葉	38	34	10	8	16	36	53	-17
16	ジュビロ磐田	37	34	10	7	17	40	48	-8
17	東京ヴェルディ	37	34	10	7	17	38	50	-12
18	コンサドーレ札幌	18	34	4	6	24	36	70	-34

得点ランキング上位

順位	選手名	所属	得点数	順位	選手名	所属	得点数
1	マルキーニョス	鹿島	21	9	田中マルクス闘莉王	浦和	11
2	ダヴィ	札幌	16	9	エジミウソン	浦和	11
3	鄭大世	川崎F	14	9	巻誠一郎	千葉	11
3	柳沢 敦	京都	14	9	カボレ	FC東京	11
5	アレックス	新潟	13	9	ディエゴ	東京V	11
6	赤嶺 真吾	FC東京	12	9	小川 佳純	名古屋	11
6	ジュニーニョ	川崎F	12	9	久大保 嘉人	神戸	11
6	ヨンセン	名古屋	12				



山形は第44節、アウェイで2位を確定。遠路はるばる駆けつけたファン・サポーターと選手たちが喜びを共にする



広島(紫)は最終節の徳島戦で勝点を100の大台に乗せた

J2 広島が独走優勝。 2位の山形が初のJ1へ

サンフレッチェ広島が9月下旬に早々と2位以内、さらに優勝を決めた後、J2リーグ戦に対する大きな関心は、J1リーグ戦への昇格内定となる2位争い、そしてJ1・J2入れ替え戦への出場権獲得となる3位争いに移った。

安定した戦いぶりによって、2位を確保したのはモンテディオ山形。11月23日の第43節、ロアッソ熊本戦を1-1と引き分け、ホームにおける2位確定のチャンスを逃した後、同30日の第44節はアウェイで愛媛FCと対戦。終盤まで1-2とリードを許す敗色濃厚な試合展開だったが、90分が終了する直前の得点で追いつき、ロスタイムに入って

FW 豊田陽平が決めて3-2の逆転勝ち。1試合を残し、勝点をライバルが上回るこのできない75と伸ばし2位が決定。小林伸二監督は「(監督)1年目でこのような経験ができたことは、非常にうれしい」と喜びを表した。

そして、広島と山形は12月1日に行われたJリーグ臨時理事会で、J1への昇格が承認された。広島は1シーズンでのJ1復帰、山形は1999年のJリーグ入会后、初のJ1昇格となる。

一方、3位確保へ最短距離にいたのがベガルタ仙台。第44節はサガン鳥栖に1-4と敗れて持ち越しとなったが、最終節の第45節

順位表

順位	チーム	勝点	試合	勝	引分	敗	得点	失点	得失差
1	サンフレッチェ広島	100	42	31	7	4	99	35	+64
2	モンテディオ山形	78	42	23	9	10	66	40	+26
3	ベガルタ仙台	70	42	18	16	8	62	47	+15
4	セレッソ大阪	69	42	21	6	15	81	60	+21
5	湘南ベルマーレ	65	42	19	8	15	68	48	+20
6	サガン鳥栖	64	42	19	7	16	50	51	-1
7	ヴァンフォーレ甲府	59	42	15	14	13	56	47	+9
8	アビスパ福岡	58	42	15	13	14	55	66	-11
9	ザスパ草津	53	42	13	14	15	45	52	-7
10	横浜FC	50	42	11	17	14	51	56	-5
11	水戸ホーリーホック	47	42	13	8	21	52	70	-18
12	ロアッソ熊本	43	42	10	13	19	46	72	-26
13	FC岐阜	42	42	10	12	20	41	69	-28
14	愛媛FC	37	42	9	10	23	39	66	-27
15	徳島ヴォルティス	29	42	7	8	27	40	72	-32

得点ランキング上位

順位	選手名	所属	得点数	順位	選手名	所属	得点数
1	佐藤 寿人	広島	28	9	森崎 浩司	広島	14
2	高橋 泰	熊本	19	9	高萩 洋次郎	広島	14
3	石原 直樹	湘南	18	9	大久保 哲哉	福岡	14
3	藤田 祥史	鳥栖	18	12	梁 勇基	仙台	13
5	荒田 智之	水戸	17	12	長谷川 悠	山形	13
6	アンデルソン	横浜FC	16	12	ジェルマーノ	C大阪	13
6	小松 塁	C大阪	16	15	後藤 涼	草津	12
6	香川 真司	C大阪	16				

にホームでザスパ草津を1-0と下し、勝点を70として、やはり3位となるチャンスのあったセレッソ大阪、湘南ベルマーレ、鳥栖を振り切った。

また、28ゴールを決めた広島のエースストライカー、FW 佐藤寿人がリーグ戦で最多得点をマークした。

J1・J2入れ替え戦

第1戦 仙台 1-1 磐田

第2戦 磐田 2-1 仙台

磐田がJ1残留。19歳の松浦が全得点の活躍

J1リーグ戦16位のジュビロ磐田とJ2リーグ戦3位のベガルタ仙台によるJ1・J2入れ替え戦は、ホーム&アウェイの2試合の対戦成績を1勝1分とした磐田が勝利し、J1残留を決めた。

ユアテックススタジアム仙台で行われた12月10日の第1戦は、ホームの仙台がFWナジソンのゴールで先制すれば、磐田は19歳(試合の時点)のMF松浦拓弥が同点として1-1の引き分け。同13日、ヤマハスタジアム(磐田)へ舞台を移しての第2戦は、磐田が松浦の2得点でリード。仙台の反撃をMF梁勇基がFKを直接決めた1点に抑え、2-1で逃げ切った。

2008年9月に就任した磐田のハンス オフト監督は「ここ(磐田)に来たときの目標が(J1)残留だったので、うれしいし、満足している」と重責を果たした感想を述べた。惜しくも6シーズンぶりのJ1昇格を逃した仙台の手倉森誠監督は「最後まであきらめなかったチームを誇りに思う」と胸を張った。また、磐田の全得点をマークした松浦について、Jリーグの鬼武健二チェアマンは「来季以降の成長が楽しみ」とのコメントを寄せた。

J1、J2とも18チームで争われる来季は、3チームが自動昇降格となるため、J1・J2入れ替え戦は行われない。



磐田の全得点を決めた松浦(右)。若さあふれる思い切りのいいプレーでJ1残留に貢献した

2008 Jリーグ アンフェアなプレーに対する反則金

Jリーグは毎シーズン、アンフェアなプレーによる反則ポイントが多いクラブに対し、制裁措置として反則金を科しているが、今シーズンは、下記のJ1・6クラブ(2007年は7クラブ)、J2・4クラブ(2007年は9クラブ)がその対象となった。これは、Jリーグ規約第11章『制裁』第163条〔アンフェアなプレーに対する反則金〕および第164条〔反則ポイントの計算方法〕に基づく措置。J1リーグ戦における反則ポイントが34ポイント以下、J2リーグ戦における反則ポイントが42ポイント以下のクラブは、フェアプレー賞として表彰される。

J1

反則ポイントの年間合計数が102ポイントを超えた場合、当該クラブに対し、以下のとおり反則金を科すものとする。

103ポイント以上112ポイント以下	40万円	133ポイント以上142ポイント以下	100万円	163ポイント以上172ポイント以下	250万円
113ポイント以上122ポイント以下	60万円	143ポイント以上152ポイント以下	150万円	173ポイント以上	300万円
123ポイント以上132ポイント以下	80万円	153ポイント以上162ポイント以下	200万円		

順位	クラブ	反則ポイント	反則金	試合数	警告	警告2回による退場	退場	停止試合数	警告退場以外の試合数	1試合平均ポイント
1	清水エスパルス	0	¥0	34	33	0	0	2	13	0.00
2	ガンバ大阪	29	¥0	34	43	1	0	5	10	0.85
* 3	鹿島アントラーズ	41	¥0	34	45	2	1	6	9	1.21
4	横浜 F・マリノス	42	¥0	34	48	3	0	6	9	1.24
5	川崎フロンターレ	44	¥0	34	50	0	0	5	7	1.29
* 6	浦和レッズ	69	¥0	34	60	0	1	10	8	2.03
7	F C東京	74	¥0	34	53	0	2	10	5	2.18
* 8	京都サンガF.C.	74	¥0	34	54	2	3	9	6	2.18
9	ジェフユナイテッド千葉	76	¥0	34	64	3	0	9	6	2.24
10	大宮アルディージャ	91	¥0	34	61	0	2	12	4	2.68
* 11	ジュビロ磐田	91	¥0	34	66	4	1	13	7	2.68
12	名古屋グランパス	92	¥0	34	62	0	0	13	3	2.71
* 13	ヴィッセル神戸	110	¥400,000	34	66	2	2	14	2	3.24
14	柏レイソル	112	¥400,000	34	59	5	3	18	5	3.29
15	アルビレックス新潟	117	¥600,000	34	70	2	1	15	1	3.44
* 16	大分トリニータ	127	¥800,000	34	78	4	1	16	2	3.74
17	コンサドーレ札幌	134	¥1,000,000	34	74	3	4	18	3	3.94
* 18	東京ヴェルディ	143	¥1,500,000	34	81	5	1	20	2	4.21
合計			¥4,700,000							

*印のクラブのポイントには、次の停止試合数が含まれる。

・退席および退席に伴うベンチ入り停止試合数 ・第33節および最終節の退場処分により未消化の停止試合数

J2

反則ポイントの年間合計数が126ポイントを超えた場合、当該クラブに対し、以下のとおり反則金を科すものとする。

126ポイント以上135ポイント以下	40万円	146ポイント以上155ポイント以下	80万円	166ポイント以上	150万円
136ポイント以上145ポイント以下	60万円	156ポイント以上165ポイント以下	100万円		

順位	クラブ	反則ポイント	反則金	試合数	警告	警告2回による退場	退場	停止試合数	警告退場以外の試合数	1試合平均ポイント
1	ベガルタ仙台	36	¥0	42	54	0	0	6	12	0.86
2	横浜 F C	58	¥0	42	61	6	0	10	13	1.38
3	モンテディオ山形	63	¥0	42	56	4	1	11	11	1.50
4	サンフレッチェ広島	64	¥0	42	60	1	1	11	11	1.52
5	愛媛 F C	65	¥0	42	65	0	0	8	8	1.55
6	サガン鳥栖	70	¥0	42	59	2	2	11	10	1.67
7	徳島ヴォルティス	77	¥0	42	72	2	0	11	10	1.83
* 8	セレッソ大阪	104	¥0	42	81	2	1	12	6	2.48
9	ロアッソ熊本	116	¥0	42	80	3	2	16	7	2.76
* 10	水戸ホーリーホック	120	¥0	42	82	5	1	17	7	2.86
11	F C岐阜	124	¥0	42	76	3	1	17	3	2.95
12	ヴァンフォーレ甲府	140	¥600,000	42	83	3	3	18	3	3.33
13	湘南ベルマーレ	157	¥1,000,000	42	87	4	3	21	2	3.74
14	アビスパ福岡	168	¥1,500,000	42	102	3	2	21	2	4.00
15	ザスパ草津	171	¥1,500,000	42	96	6	2	26	5	4.07
合計			¥4,600,000							

*印のクラブのポイントには、次の停止試合数が含まれる。

・退席および退席に伴うベンチ入り停止試合数

<反則ポイントの計算方法>

(反則ポイント)=[(警告)-(警告2回による退場)×2]×1ポイント+(警告2回による退場)×3ポイント+(退場)×3ポイント+(停止試合数)×3ポイント-(警告および退場(退席を含む)がなかった試合数)×3ポイント

19 アルビレックス新潟



新たな段階に入った成長。 地域社会貢献も次のステップへ



負傷中の選手を除くほぼ全員が、中越沖地震の被災地である柏崎市を訪問した ©アルビレックス新潟

1年越しの念願がかなう

2008年10月12日、午後4時。新潟県柏崎市内でサッカー大会を行っていた約500人の小、中学生の前にアルビレックス新潟の選手たちが現れた。「うわー」、「マルシオ(リシャルデス)だ! 本物だ!」と興奮する子供たちに向かって、中野洋司選手が「一緒にボールを追いかけて楽しみましょう」と選手代表としてあいさつ。選手たちは土のグラウンドで昔を懐かしみながら、子供たちに混じってミニゲームで汗を流した。

柏崎市は2007年7月16日に起きた中越沖地震の被災中心地。選手会とクラブは義援金募金、グッズオークションなどの活動は行ってきたが、早期から願っていた被災地訪問はスケジュールの関係から実現できずにいただけに、1年越しの念願がかなった形となった。

アルビレックス新潟は今季、選手のファンサービス、地域貢献活動が積極的だ。スタジアム内では、開幕4連敗しても応援に来てくれるファン・サポーターに向けて何かできないかと、選手たちがウオーミングアップ前にスタンドに向かってグッズの投げ入れを始めた。また、出場停止などでベンチ入りしない選手が随時、即席のサイン会を行い、感謝の意を表している。

スタジアムの外でも活動は広がっている。被災地訪問のほかに、ホームゲームで勝利すれば、県内の小学生チームにボールをプレゼント。障害のある方々のチームにも、使い終わった道具を提供するなどした。長年、選手がそれぞれ小学校を訪問する活動を行ってきた鹿島アントラーズなどに比べて、アルビレックス新潟

は地域貢献活動が少なかったが、今季、変化が起きた。

「選手にも勉強になる」

主なきっかけは入場者数の減少だ。ホームゲームで、浦和レッズに次ぐJリーグ2位の入場者数を誇るアルビレックス新潟。これまで常に4万人に迫る入場者がスタジアムに訪れていたが、その数字が徐々に減ってきている。J1初年度の04年はリーグ戦の1試合平均が3万7689人。05年はさらに伸び、浦和を上回って4万114人と、当時のリーグ最高をたたき出した。しかし、06年は3万8709人、07年は3万8276人と徐々に減少。今季は3万4490人と、約4,000人も減った。満員が当然だったといってもいい試合会場の東北電力ビッグスワンスタジアムには空席が目立つようになった。

クラブ立ち上げからかわっている田村貢(たむら みつぐ)常務は「J2(リーグ戦)のころは、インスタントカメラを持って選手2人で中学の部活に行き、サッカーして記念写真を撮ってくるというのもあった。ただ、今はそういう活動が足りないなど感じている。実際にサポーターの方から距離ができたという意見もいただいている」と話し、クラブ離れの危機感を抱いている。



田村 常務

田村さんが一からつくり上げたアルビレックス新潟は、地域の人に支えられて育ってきたクラブ。地域とのコミュニケーションを怠れば、クラブの根幹が揺るぎかねない。だからこそ田村さんは「こちらから積極的にやりたいと思うし、そうすることによって受ける側ももっと支援しようという動きになっていくと思っている」と活動を拡大する方針を示している。もちろん地域貢献活動を行うのは、入場者を呼ぶためだけではない。ただ、大きなスポンサーがないクラブにとって、入場料は大きな収入源でもある。

具体的には、現在も行っている小、中学生の観戦招待。例えばそのチケットを選手が直接学校に訪問をして渡し、そのときに『ユメセン』(注)のように現役選手が子供のころの夢など

を話し、子供たちとコミュニケーションをとる。さらに「震災の復興の手助けは積極的にやっていきたい。まだ復興もすべて終わっていないわけではない。心の部分のダメージは非常にあると思う。そういう部分のケアをやっていきたい」と田村さんは強調する。

被災者だけでなく、08年1月に田中亜土夢選手が特別支援学校を訪問したように、障害者施設を訪れる機会を増やしたいという。そしてそれが「選手も勉強になってセカンドキャリアにも生きてくるだろうし、新潟出身でない選手も多いので、地域のことを知るという意味でも成長になる」と選手育成の意味もあると話す。

新潟県初のプロスポーツクラブ、アルビレックス新潟は1999年のJ2入会から少しずつ強くなるチームと比例するかのように入場者数も増え、人気を獲得した。ただ、ここに来て入場者数減という現実から、急成長の時期は過ぎ、新たな段階に入ったことを認識しなければならない。支えてくれる多くのファン・サポーターと共に成長してきた「地域密着」から始まったクラブであるからこそ、地域社会貢献の意味は大きい。次のステップへ、今季新たなスタートを切った。

(新潟日报社 西巻 賢介)

(注)日本サッカー協会(JFA)の実施する「JFAこころのプロジェクト」において、「夢先生」と呼ばれる日本代表選手やJリーガーが小学校の授業を受け持ち、夢を持つことの素晴らしさ、夢に向かって努力することの大切さなどについて、子供たちと語り合い、触れ合いながら伝えていく。



ファン・サポーターへの感謝をこめて、スタンドへグッズを投げ入れる北野貴之選手 ©アルビレックス新潟

誰もが気軽にスポーツを楽しめるような環境づくりを目指す「Jリーグ百年構想」の実現に向けて、JリーグとJクラブはさまざまな施策を展開している。その活動の最前線ともいえるJクラブは、それぞれのホームタウンを中心に、地域の特色、実情などに応じて多彩なプログラムに取り組む。地域に根差し、活力を与えるこれらの活動を、各地のメディアがリポートするシリーズの10回目は、アルビレックス新潟と徳島ヴォルティスにスポットを当てた。



20 徳島ヴォルティス



スポーツを通じた健康増進。地域に根差したクラブならではの取り組み

Jリーグ百年構想に軸足

温暖で穏やかな気候の徳島県。いかにも住み心地の良さそうな地方都市であるが、一方で1993年以来、糖尿病死亡率が14年連続全国ワースト1位という不名誉な記録も持っていた。この事態を重く見た県政は「糖尿病緊急事態宣言」を発令し、「健康とくしま県民会議」を設立。医療福祉関係者を中心に官民一体となった健康づくりを一層推進していくという姿勢を前面に押し出したのである。そのかいあってか、2007年にはワースト6位へ順位を下げることができた。とは言え、まだ全国平均を上回る現状を忘れるわけにはいかない。

04年に発足したプロスポーツクラブの徳島ヴォルティスは、Jリーグ公式試合の運営はもとより、当初から教育や社会貢献の面でJリーグ百年構想に軸足を置いたさまざまな活動を展開してきた。そんな中、前出のような地元・徳島県の状況を憂い、「地域のためにできることは」と、その一助となる方法を模索し続けていた。

そして、トライした一つの試みが各ホームタウン教育委員会への積極的な働きかけだ。

「行政とタイアップすることにより、今までとは違った角度から子供たちへアプローチができるのではという期待があった」と

事業部に属し広報・企画を担当する平岩裕治氏が語るように、まずは07年、これまで継続していた巡回サッカー指導を、徳島市の「こども元気アップ事業」の一環として徳島市教育委員会とタイアップし「小学校巡回スポーツ指導」という形で発展・スタートさせることになった。

これは、徳島市内で希望のあった小学校をスクールスタッフが訪問し、ボールや学校にあるものを使って、通常の体育の授業内で行えることを中心に子供たちを指導するものだ。このプログラムにより運動への意欲付けと体力・運動能力の向上を図ると同時に、クラブへの親近感の醸成とサッカーの普及を同時に果たしている。



平岩 広報・企画担当



ホームタウンの教育委員会とタイアップし、スクールスタッフが地域の小学校で体育の授業をサポートする。子供たちの運動能力の向上はもちろん、その指導方法も教師陣から好評を得ている ©徳島ヴォルティス



また、08年には鳴門市の「学校体育活性化事業」で鳴門市教育委員会とタイアップ。週2回、スクールスタッフが体育アドバイザーとして指定された学校を訪問し、体育学習時に指導教員の補助を務めるという活動内容だ。

半年という長い時間をかけて施されるこの事業は、子供たちの体力・運動能力の向上という従来の目的以外に、スクールスタッフの的確な運動解説と指導する姿を目の当たりにすることで、学級担任の運動理解と指導方法の見直しをも目的としていた。実際にこれを体験した教師陣からは「プロコーチの動きやタイミングには目を見張る。自分たちとは違う視点で児童に解説する姿は、貴重な教材研究となる」とおおむね好評を得ている。

こうした、主としてホームタウンを対象に行われ始めた教育委員会とのタイアップ事業は、状況や要望が千差万別。しかし、少しでも多くのニーズを反映させたオーダーメイドのプログラムをつくることで、クラブとしてもノウハウが蓄積されていく。

命題は「徳島の活性化」

また、中高年齢層に対しての活動も怠らない。徳島県には行政が考案した「阿波踊り体操」がある。伝統芸能である阿波踊りを、徳島大学の田中俊夫教授がアレンジ・構成したも

のだ。この地元色豊かなフィットネスも07年は60歳以上のお年寄りを対象とした「介護予防編」で、また08年は40～50歳代に広く伝えたい「メタボリックシンドローム予防・解消編」として、年間数回のスタジアムイベントに取り入れて普及に努めている。愛好者層にピッチで気持ちよく体を動かしてもらいながら、健康に興味を持ちスポーツを身近に感じてもらいたいという想いが、そこにはあるのだ。

さらに、昨今はマラソンブーム。09年も継続して実施される「とくしまマラソン」の応援企画として、近く「徳島ヴォルティスランニング倶楽部」を発足させる。とくしまマラソンへ出場する限定11名に対し、好タイムもしくは完走を目指したトレーニングをサポートするという内容だ。

活力ある地域をつくるためには、そこに住む人々がまずは健康であること。「そのためのきっかけや情報をクラブから発信できれば」と平岩氏が意気込むように、スポーツを通してそれが達成されるなら、それはなんと素晴らしいことだろうか。

徳島ヴォルティスは「徳島の活性化」という命題に対し、地域に根差したプロスポーツクラブならではの取り組みを持ち味として活動を進めている。そして、それはこれからも変わることはない。

(サッカージャーナリスト 松下 浩太郎)



2008 Jリーグ チェアマン総括

(社)日本プロサッカーリーグ チェアマン 鬼武 健二

リーグ戦、リーグカップ戦

J1リーグ戦では鹿島アントラーズが見事な連覇を成し遂げたが、今シーズンは優勝争いだけでなく、AFCチャンピオンズリーグ(ACL)2009の出場権争い、残留争いも含め、最終節まで予断を許さなかった。最終節を前にして、10クラブがこうした争いに絡み、非常に興味深い戦いが演じられた。かなり高いレベルで、実力がきつ抗していたと思う。Jリーグ・アカデミーの取り組みの成果もあり、総合的なレベルは上がってきた。今後はストライカーやドリブルが得意な選手など、強烈なインパクトを与える個の輩出にも期待したい。また、地域の皆さんがそれぞれのチームを真剣に応援し、支える姿も印象的だった。

15チームで行われたJ2リーグ戦は、サンフレッチェ広島が独走優勝したが、前節まで6位のサガン鳥栖にも最終節まで3位に入るチャンスがあり、水戸ホーリーホックやザスパ草津が健闘するなど、レベルが接近してきた。初のJ1昇格を果たしたモンテディオ山形を含め、こうしたチームの活躍によって地域も活性化しつつあり、入場者も増えた。J2のクラブから日本代表やU-23日本代表に選手が選ばれたことも、大きな励みとなる。

大分トリニータのJリーグヤマザキナビスコカップ優勝は、地域密着への努力が実った一つの例だろう。あらゆる交通手段を使って多くのファン・サポーターが駆けつけた。国立競技場を埋めた大分トリニータ、清水エスパルス双方のファン・サポーターが決勝を盛り上げてくれた。参加した全チームが全力を尽くし、大会を素晴らしいものにしてくれた。

イレブンミリオン

2010年までにJリーグの年間総入場者数を1,100万人にするという「イレブンミリオン」は2シーズン目。年間入場者数は、9,130,030人と過去最高を記録した。各クラブが目標達成に向けて、真剣に努力している姿勢に感謝したい。常々、言っているように、イレブンミリオンは単なる数値目標ではなく、クラブが地域と一体になって行う活動の総合的な成果によって実現するもの。ピッチ上の選手のフェアで熱い戦い、また社会貢献、スポーツ振興、ホームタウン活動など、あらゆる取り組みが結びつく。

クラブのスタッフや選手たちにも、多くの方々にスタジアムへ足を運んでいただきたいという意識が高まっている。選手たちは地域の学校や施設の訪問、清掃活動など、さまざまなシーンへ積極的に顔を出し、子供たちや高齢者にも喜ばれている。

各クラブは試合当日のスタジアムにおいて、さまざまなイベントやアトラクションを企画し、どうしたらファン・サポーターの皆さんに楽しんでもらえるかに心を砕いている。もちろん、選手たちには90分間、魅力あふれるプレーを見せてほしい。

Jリーグ・アカデミーの活動

最も重要な施策の一つである育成に関しては、2007年からスタートしたU-13のリーグ戦に続き、08年にはU-14のリーグ戦も始まった。U-13は出場チームの数も増え、軌道に乗りつつある。タウンクラブとの交流も密接なものとなり、地域の関係者からも積極的な取り組みの姿勢に好評価をいただいている。13歳、14歳の年代は、どうしても試合に出場する機会が少なかったが、選手たちは試合ができる喜びを爆発させ、素晴らしいプレーを見せてくれている。国際的な選手の育成はもちろん、人間としても成長できるような取り組みを行ってほしい。

また、夏休みにはU-16 Jリーグ選抜がアラブ首長国連邦、U-15 Jリーグ選抜がブラジル、U-14 Jリーグ選抜がオランダ/ドイツで海外キャンプを行った。普段とは異なる環境の下、レベルアップ、国際交流に大きな成果を挙げた。今後とも計画的、継続的に実施したい。

国際化

国際化の重要性は、7月に発表したチェアマン指針でも述べた。トップチームでは、07年の浦和レッズに続き、ガンバ大阪がACL2008に優勝を飾り、アジアの代表としてFIFAクラブワールドカップ ジャパン 2008への出場を果たした。ACLに出場したチームには、Jリーグ優勝を目指すだけでなく、アジアの覇権を握ろうという意欲に相当のものがあつた。地域でもJリーグにおける活躍がアジア、そして世界へとつながることへの認識が浸透してきた。今後Jリーグを目指そうというクラブにとっても、大きな夢となり、目標となることだろう。これからもリーグとし



© J.LEAGUE PHOTOS

て、あるいはクラブ単位で、さらに国際交流を図ってほしい。

ピッチ外の国際交流では、JリーグやJクラブの関係者がアメリカでのプロスポーツビジネス視察、欧州のスタジアム視察などを行った。その成果を、イレブンミリオン、複合施設のスタジアムなどを見据え、今後のクラブ運営に生かしてほしい。

クラブ経営に資する人材の育成

08シーズンはJリーグ GM(ゼネラルマネージャー)講座が、より実践的な講座としてリニューアルしたのも特筆される。スポーツビジネス、サッカービジネスは欧州を中心に多様化、複雑化しており、クラブ経営のあらゆる面に精通しているGMは、経営者の補佐役として絶対に必要な存在となっている。チームを統括するだけでなく、財務や事業、営業、広報など、トータルに把握できる人材を育成しておく必要がある。

もちろん、サッカーがうまくなるためには試合という実戦が必要のように、GMも座学だけではなく、現場での経験という実践が重要となる。スポーツをいい環境の下で楽しめるハードとソフトづくりにおいて、最も大事なGMが信頼され、信頼されるだけの実力を持つこと。今後、Jリーグを目指すクラブも全国に多く存在し、クラブのかじ取り役としてGMの役割はますます重要となる。

* * *

来シーズンは新たに栃木SC、カターレ富山、ファジアーノ岡山の3クラブがJリーグの仲間となり、36クラブでのスタートとなる。さらに、全国では多くのクラブがJリーグを目指している。それらの将来の仲間たちに、ぜひとも入会したいと思っていただけるJリーグとなるべく、2009年も事務局、クラブが一体となって努力を積み上げていかなければならない。



「Jリーグニュース」は100%再生紙を使用しています。